



[果樹部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

12. 施設栽培ブドウにおいて、薬剤感受性が低下しているナミハダニの発生状況

[要約] 県南の施設栽培ブドウに発生するナミハダニは主要6薬剤に対して薬剤感受性が低下しており、過去の使用回数が多いほど低下する傾向がみられる。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 病虫研究室

[連絡先] 電話086-955-0543

[分類] 情報

[背景・ねらい]

岡山県の施設栽培ブドウでは、ナミハダニの被害による品質低下が問題となっており、その理由の一つとして薬剤の防除効果が低下していることが考えられる。そこで、主要な殺ダニ剤について薬剤感受性検定を行い、効率的な防除対策に資する。

[成果の内容・特徴]

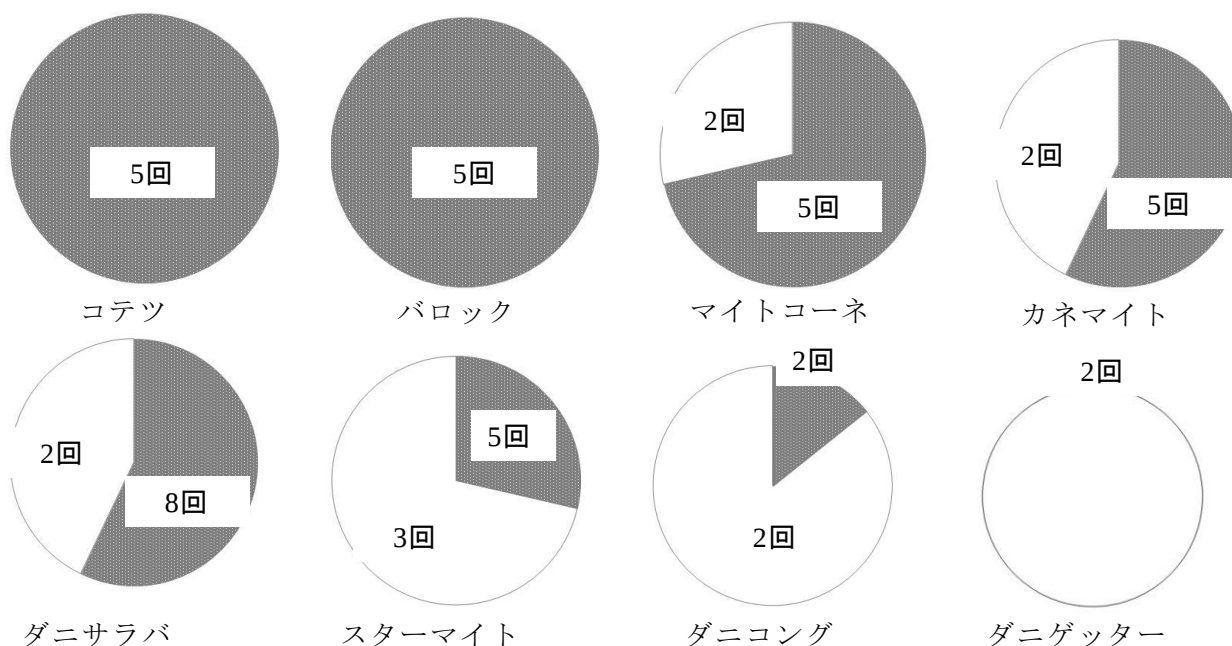
1. 2016年に県南の施設ブドウ「マスカット・オブ・アレキサンドリア」および「シャインマスカット」等の7圃場から採集したナミハダニ（雌成虫または卵・幼虫）は、主要8薬剤（コテツフロアブル、バロックフロアブル、マイトコーネフロアブル、カネマイトフロアブル、ダニサラバフロアブル、スターマイトフロアブル、ダニコングフロアブル及びダニゲッターフロアブル（以下「フロアブル」を省略））のうち6薬剤（コテツ、バロック、マイトコーネ、カネマイト、ダニサラバ及びスターマイト）に対して薬剤感受性が低下している（図1）。
2. 薬剤感受性が低下しているほ場のナミハダニ防除剤の散布状況をみると、過去5年間で少なくとも最大5回であり、大きな感受性の低下がみられないほ場では多くとも最大3回である（図1）。
3. ダニコングは、近年市販された薬剤であり、全ほ場で過去2回しか散布されていないにもかかわらず、薬剤感受性の低下がみられる（図1）。ダニサラバ、スターマイト、ダニコングの3剤はハダニ類の同一作用点に効果を示す剤であり、ダニサラバやスターマイトに対して薬剤感受性が低下することで、交差抵抗性が発現し、ダニコングの効果が低下していると考えられる。

[成果の活用面・留意点]

1. ここでは薬剤処理後の死亡率が50%以下の場合を「薬剤感受性が低下している」、50%より高い場合を「大きな薬剤感受性の低下がみられない」と評価している。
2. 交差抵抗性が発現していると考えられるダニサラバ、スターマイト、ダニコングについては、現在、防除効果が認められるほ場においても、薬剤感受性の低下を防ぐために3剤あわせて年1回の使用にとどめる必要がある。
3. ナミハダニの薬剤感受性は、施設毎の薬剤散布履歴が影響する。そのため、薬剤感受性の低下状況は施設ごとで異なる。



[具体的データ]



▲ : 薬剤感受性が低下しているナミハダニの発生圃場割合

△ : 薬剤感受性に大きな低下を認めなかった圃場割合

注) 調査ほ場数は7ほ場。各グラフ内の数字は、過去5年間のそれぞれの薬剤の最大使用回数

図1 主要8薬剤に対して薬剤感受性が低下しているナミハダニの発生ほ場割合（2016年）

[その他]

研究課題名：主要病害虫の薬剤感受性の発生生態の解明と有効薬剤の選抜

予算区分：交付金

研究期間：2016～2018年度

研究担当者：佐野敏広・薬師寺 賢

関連情報等：[平成19年度試験研究主要成果、29-30](#)